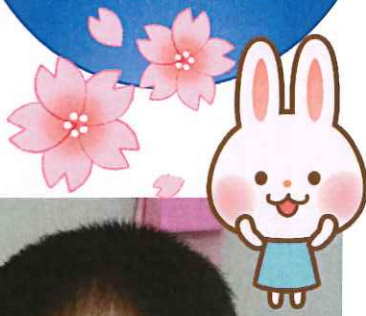


**第34号**  
 発行所  
 下関市こども発達センター  
 〒751-0827  
 下関市幡生本町26-12  
 TEL 083(233)9850  
 FAX 083(233)9851

下関市こども発達センター広報誌  
**わんぱく**  
**つうしん**



「さよならだけさよならじゃない」  
 下関市こども発達センター  
 センター長 河合 和泉

鴨長明の「方丈記」の書き出しは、「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。」(河の流れは常に絶える事がなく、しかも流れ行く河の水は移り変って絶間がない。)です。卒園式を迎えると、卒園児さんはもちろんのこと、在園児さんにとっても先生方にも、卒園児さんとの別れが訪れます。

また、唐の詩人宇武陵の五言絶句「勸酒」  
 勸君金屈卮 滿酌不須辭 ※  
 花發多風雨 人生足別離

を大正・昭和期に活躍した小説家井伏鱒二の有名な訳詞の下二句では、  
 「サヨナラ」ダケガ人生ダ  
 とあります。

やはり花の時は古来より別れの季節だったのでしよう。

「会うは別れの始め」と言われますが、また「別れは出会いの始め」でもあります。

4月になると新入園児さんとの出会いが待っています。

「別れ」だけでなく、新しい「出会い」もありますし、「再会」もあると思います。

卒園児さんや保護者の皆さんそしてこども発達センターに関わった多くの皆さんとまたここ、こども発達センターでお会いできることを楽しみにしています。

さよならだけさよならじゃない  
 きつと きつと ここで会おうよ

※ 君にこの金色の大きな杯を勧める  
 なみなみと注いだこの酒、遠慮はしないでくれ  
 花が咲くと雨が降ったり風が吹いたりするものだ  
 人生に別れはつきものだよ  
 《人生には別れが多いものだよ》

**ペアレントメンター**

こんにちは。ペアレントメンターをご存知でしょうか？  
 メンターとは、「信頼のおける相談相手」という意味です。ペアレントメンターとは、発達障がい(自閉症スペクトラム症など)のある子どもの子育てをしており、かつ相談支援に関するトレーニング(メンター養成講座)を受けた親をいいます。

現在、メンター相談会を定期的に開催しています。メンター相談会は、発達障がいの者の家族等支援の一つとして、家族が互いに支え合ったり、家族やその他の関係者への情報提供を行う活動として平成28年8月に発達障害者支援法の一部が改正され、追加された支援です。

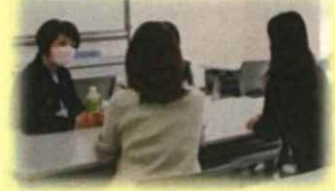
そして、令和4年度より直接身近な支援を実施するため都道府県より市町村に移管されました。下関市は、下関市こども発達センターが委託を受け、市と連携をし、活動を行っています。

メンター相談会では、同じ発達障がい児・者を育てる親として、同じ立場自線で話を聞いたり、経験談をお話ししたり、地域の社会資源等についての情報提供や情報交換を行っています。

ペアレントメンターは、専門家ではありませんが、子育てをする上での葛藤や不安を私たちに話して、気持ちが悪くなったりすることがあるかもしれません。

子どものことで困っていること、誰かに相談したいこと、聞いてほしいこと、聞きたいことなど、何でも気軽に話してみませんか？ペアレントメンターができる形で、同じ悩みをもつ保護者のみなさんを応援します。

令和5年度の活動は、下関市立勝山公民館で、毎月第2金曜日午前10時30分～11時45分で開催します。開催場所・日時等に関しては、下関市こども発達センターホームページに掲載しています。  
 ご利用をお待ちしています。



下関市こども発達センター  
**診療所**

昨年12月、文部科学省から「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の結果が公表されました。前回の調査から10年経過したため、児童生徒の実態と支援の状況を明らかにし、今後の施策の在り方等を検討することが目的です。詳細については報告書をご覧くださいと思います。学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合が、小学校・中学校においては推定値8.8%、(平成24年調査の推定6.5%)と増加しています。前回の調査方法と少し異なる点があるため単純比較はできませんが、臨床で感じる印象を裏付けるような結果であると思われれます。年々特別支援教育を受ける子どもが増えるなか、診療所への受診希望も多くマンパワーの不足を感じざるを得ません。限られた時間のなかで、少しでも多くの相談に対応すべく、本年4月から診療体制を見直していきます。予約システムがより効率的であるよう、思考錯誤を重ねながら、皆様に満足していただける診療を提供できるよう努力して行きたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

診療所長 大賀 由紀



**寄贈品・ご厚意紹介**

△ご寄附▽  
 大和証券グループ創立120周年の記念事業である「大和証券グループ120周年記念こども未来プロジェクト」として、大和証券株式会社下関支店 山口無我支店長よりご寄附をいただき、玩具を購入させていただきました。

下関市こども発達センターの活動や事業の趣旨にご賛同いただき、星山 武三氏からもご寄附をいただきました。その他、匿名でのご寄附や令和4年度NHK歳末たすけあいお年玉プレゼントにおいてもご寄附をいただきました。



△ご寄贈▽  
 下関北ロータリークラブ(上原祥典会長)から創立50周年事業として、2人乗り三輪車、絵本棚、大型絵本を寄贈していただきました。

社会福祉法人 千寿会様より  
 ・体育用タンポリン  
 ・ザイロホーン  
 ・メタルホーン  
 ・音階ドラム

歳末たすけあい運動助成事業より  
 ・イヤーマフキッズ  
 ・タイムタイマー  
 ・メーカー12色  
 ・ヨギボーマックス

公益財団法人 中部財団様より  
 ・魚肉ソーセージ

△いも掘り体験▽  
 市内にお住いの西野さんのご厚意により、はたが園・キッズハウスの子どもたちが、6月にじゃがいも掘り10月にさつまいも掘りを体験しました。

貴重なご寄附・ご寄贈をいただきまして、心よりお礼を申し上げます。子どもたちの支援のために大切に活用させていただきます。

ありがとうございました。



# 下関市こども発達センター 令和4年度をふりかえって はたぶ園

## うさぎ組

年少さん3名、年中さん2名、年長さん3名の計8名(男の子7名、女の子1名)のクラスです。ごっこあそびが大好きで、毎日ラーメン屋さんやアイスクリーム屋さんになって、ご馳走を振舞ってくれています。お医者さんごっこが始まると、患者さんが次々に「おなか、いたいよー」と迫真の演技で集まってきました。患者さん役とお医者さん役の交替もとても上手になってきました。また、うさぎ組には博士もたくさんいます。数字博士に車博士、国旗博士などなど。大人がビックリするほどよく知っていますよ。みんなで一緒に遊ぶことも、好きな遊びに集中することも、どっちも楽しいと思える環境をこれからも作っていきたくと思っています。



## きりん組

きりんぐみは、男の子8名、女の子2名 総勢10名のクラスです。元気なこどもさんが多いきりんぐみは戸外あそびが大好き。春には乗りこなせなかった三輪車で、今ではレースや二人乗りを楽しんでいます。シャボン玉を膨らませ、追いかけて、ぱちんと割って大はしゃぎ。砂場ではカフェごっこで「レストラン開店します!」「ランチです!」とお皿にきれいに草や、ドングリを盛り付けて楽しんでいます。また、トミカやプラレールで街を作り上げるのもとても上手です。園生活の中では自分で出来ることを増やしていき、楽しい経験を積み重ねたり、お友達とのつながりを大切に、自分に自信を持てる人になっていけるよう支援しています。



## こあら組

年長児3名、年中児4名、年少児3名の計10名(男の子8名、女の子2名)のクラスです。こあら組は友だち大好き!!兄弟の様に一緒にくっついては仲良く過ごしています。そして毎日色々な活動に、笑顔いっぱい取り組んでいます。造形あそびは皆大好きで、呈示を見ながら職員と一緒にそれぞれが一生懸命取り組んでいます。出来た時には、とても嬉しそうなお顔をみせてくれます。そして、お友達との関わり、やりとりも沢山増えています。職員が介入せずに子ども同士で、ちょっとした問題を解決できるようになってきました。また、友だちのお世話をしたり、大好きな友だちがいたり友だちに対しての優しい気持ちも育ってきました。

クリスマス会では、みんなで「やぎとトルロ」のオペレッタに挑戦しました。物語や音楽を楽しみながら練習に参加し、本番ではみんなの前で橋渡りを披露しました。子ども達が「できた!!」と笑顔を見せてくれ、一人ひとりの自信に繋がっていく事が出来ました。

これからも楽しい経験を沢山積み重ねていきたいと思います。



## ぞう組

元気いっぱいのぞうぐみさん。男の子8名、女の子2名の10人のクラスです。お友だちが大好き!遊ぶことが大好き!食べるのが大好き!先生が大好き!いっぱい好きに囲まれて毎日楽しく過ごしています。

クリスマス会では練習ではないお客さんの前でも、一人一人がしっかりやり遂げ、みんな誇らしげな表情をしていました。

毎日いろいろな経験を積み、少しずつ自分で出来るが増えて、自信もついて来ました。これからも元気いっぱい頑張ります!



## 発達支援室

発達支援室は、臨床心理士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士等の専門職が配置されています。今年度は、コロナ禍の影響が一時期に比べれば緩和したように感じます。とはいえ、子どもが休日に体を動かしたり、家庭以外の場で経験を広げたりすることには、まだ少なからず影響が続いているのではないかと思います。こういう時だからこそ、家庭でできるお手伝いややりとりに繋がる遊びを取り入れて、今できるところで経験値をあげていくというのよいのかもかもしれません。

発達支援室としては、年々、発達支援への認識が高まり、相談や紹介が増える中で、適時に適度な支援が不十分であるというジレンマも抱えています。訓練・相談の頻度や時間といった量的な支援に限られている状況で、質的な支援、つまり専門性を高めることが求められていると日々感じています。同時に、子どもたちの生活の場である地域の園や学校とのサポート体制を築くことが、さらに重要かと思えます。こうしたことを踏まえ、発達支援室では、個々の専門的な資質向上に努め、子どもを取り巻く環境も含めて適切な支援を繋げて行きたいと思っています。



## キッズハウス

4歳未満の子どもたちが保護者の方と一緒に活動しています。

コロナ禍でできる活動、コロナ禍でも楽しめる活動を心掛けてはいますが、なかなか思うようにいかないことも多いです。マスクをした職員しか知らない子どもたちに、「もう少しお口の動きを見て欲しい」「表情を見せたい」と思うことがたくさんあります。相手に伝わる表現を工夫しながら試行錯誤の毎日です。来年こそは何も気にすることなく活動ができますように。



## 下関市こども発達センター どーなつ

今年度のどーなつは3歳~6歳の発達の気になるこども達、約120名が在籍しています。1週間を午前と午後の10グループに分け、午前のグループは「在宅児、他の児童発達支援、地域の幼稚園、保育園に通っている未満児、年少児、年中児」の5グループ。午後のグループは「地域の幼稚園、保育園に通っている年中児、年長児」の5グループです。

週1回のグループ活動の中で他児と共に遊ぶことの楽しさや仲間意識、遊びのルール理解、達成感を目的とし、成功体験を重ね自信に繋がれるような支援を心がけています。また、実物や絵・写真カードを利用し人に思いを伝えること、伝わる喜びを深めることなどのコミュニケーション支援を行っています。写真は、クッキングの様子です。皆で協力してホットケーキを作って食べ、飾りつけも楽しみました。



## 下関市こども発達センター豊浦

下関市こども発達センター豊浦では児童発達支援(未就学児の支援)と放課後等デイサービス(学齢児の支援)の二つの事業を行っています。1日の定員数は、二つの事業を合わせて10名となっています。現在、約50名の児童・生徒が在籍しています。

放課後等デイサービスでは、「みんなであそぼう」という活動があります。

しっかりと体を動かす運動的なあそびやルールのあるゲーム的なあそびなどを設定していますが、活動時間が近づく「今日何するの?」「はやくやろう!!」と積極的に取り組んでくれる児童が多く、いつも大盛り上がりで課題にチャレンジしてくれています。

